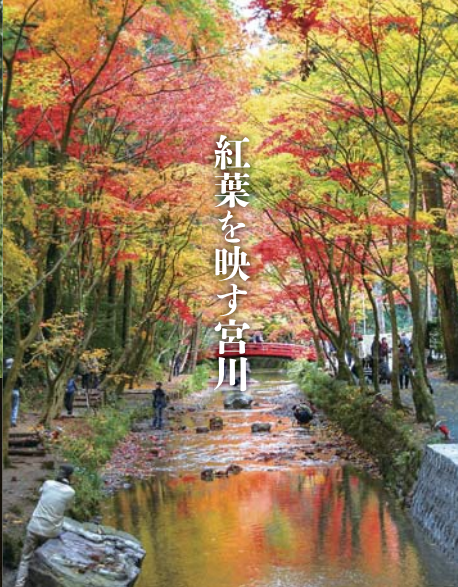




遠州の小京都



紅葉を映す宮川



太田川の桜堤



美しい山々



のどかな里山



緑輝く茶畑



天然のプラネタリウム



半夏生群生地

静岡県森町〈定住推進課〉

〒437-0293

静岡県周智郡森町森2101-1

TEL.0538-85-6321

FAX.0538-85-4419

<http://www.town.morimachi.shizuoka.jp/>

発行日／令和6年(2024年)3月

幸せ、豊かさ、てんこ^{もり}“森”

TENCOMORI

2024

静岡県森町移住のススメ



つながり集えば、てんこ^{もり}森。
みんな寄り添う、
つぶぞろいの町。



特集

もり まち

森町に移住した ファイブ 5ストーリーズ

Story1／土地の水と小さな幸せがある暮らし

Story2／車とレトロ空間を愛する僕らが選んだ場所

Story3／自然を感じながらも便利な生活に満足

Story4／天空の里山で持続可能な暮らしを発信！

Story5／地域の魅力を掘り起こす日々にかくわく

【対談】教えて！ 森町移住のあれこれ

Discovery OF My Life

ねっ！
森町に住もうよ！



森町三倉地区中村在住
横山さん一家

大阪府の里山→広島県の島→
静岡県袋井市→森町へ

横山春人さん(30代)、大阪府出身。真利さん(30代)、静岡県出身。長女と3人暮らし。移住の決め手は、暖かい気候、「山の水」での暮らし、交通の利便性。移住の先輩として移住希望者の相談に応じ、空き家や地域を案内している。

横山家のエネルギー源、薪を割るのは妻、真利さんの特技のひとつ

山の水と太陽の力、薪の燃料で 幸せを感じる豊かな暮らし。

6年間90市町を訪ね歩き、
たどり着いた理想のまち

理学療法士として医療の道を志したものの、悩みを抱いていた春人さんは、生まれ育った大阪から沖縄へ。牧場で働いているとき、妻となる真利さんと出会いました。「命の循環のなかで、自然に沿った生き方は幸せ。できるだけ自分たちの手で暮らしをつくっていききたい」。そう考えた二人は、理想の場所を探し始めます。

最初に暮らした大阪府の里山では、様々な経験を積むことができたものの、冬の厳しい寒さに断念。次に住んだ広島県の島は、暖かく環境も良かったのですが、西日本豪雨の際、本土から水を引いていた島は断水となりました。「木があれば住まいや燃料が作れる。食料は自

給自足できる。野菜も自分で栽培できる。けれど、水だけは簡単に作れない」と、水の大切さを痛感しました。

そこで、横山さん一家は、「温暖で、川や田んぼがあり、何より土地の水で生活できる場所」探しへ。6年間かけて90市町ほどめぐり、たどり着いたのが静岡県森町でした。真利さんの実家、静岡市からは新東名高速道路で1時間ほどの距離。「いろいろな土地でお世話になり、ようやく出合えた理想の場所が静岡で良かった」と、真利さんは笑みを浮かべながら話します。

地域に自然に教わる
生きる知恵

上水道が整備されていない地域は敬

遠されるものですが、「山の水」にこだわっていた横山家にとっては願ってもない理想的環境。まだ幼い娘さんは、山の水を太陽熱で沸かしたお風呂に初めて入ったとき、「お湯がやわらかいねー!」と大喜び。さらに「家の水はおいしい」と言ったそうです。取材中、コーヒータイムに「ママの焼いたパンが合うね」と、薪の窯で焼いたフォカッチャを頬張っていました。

横山家のエネルギー源の中心は薪。その薪割りには真利さんの特技です。「この薪割りのおかげで、安産だったのかも」と教えてくれました。薪にする木は近所の人たちと一緒に山で切ります。「はじめは、家族だけでシンプルな暮らしをしたいと考えていました。でも、地域の人にお祭りの文化、水源の手入れの仕方、木の切り方などを教わるうちに、地域に自然に生かされているを感じるようになりました」と、春人さん。気付いたら、すっかり地域になじんでいました。



手造りダイニングは家族団らんの場

川で、山で、田んぼで
子どもは遊びながら学ぶ

夏の間は、娘さんが幼稚園から帰ってくると、まずは川遊び。自宅のすぐそばなので、まるで「プライベートリバー」のようですね。幼稚園も自然に囲まれているので、山へ探検に行ったり川へ行ったり。「野の花や草の名前は親の私たちより知っているかも」と、成長ぶりに目を細めます。

「娘が通う幼稚園から他の幼稚園へ遊びに行ったとき、娘たちはお土産に山で採れたワラビを持っていき、アク抜きの仕方を教えてきたそうなんですよ」。こんなこと都会じゃ経験できません。「自然で



自宅近くのまるで「プライベートリバー」のような川で水遊び

遊びながら学ぶことで実践的に身につく恵まれた環境だと思います」。三倉地区中村町内会は、18世帯中、13人の子どもがいるため「子ども会」が復活した森町の希望、奇跡の集落なのです。

水道が通っていない中山間地域です。「でも、車で10分走れば町役場まで行けるし、新東名高速道路を使えば1時間で静岡市内にも着く。娘には都会と田舎、両方を見てほしい」と、真利さん。

また、「もし実家付近が断水したら、行政の支援を待つ方が多いでしょう。三倉地区では、自分たちで原因を調べ、みんなで協力し合い解決していく。そんな見える暮らしが、いいな、と思うんです」と、言葉を続けました。

人が集い、幸せを感じる家へ

大工でもある春人さんが、住める状態ではなかった小屋をすてきな住居に改築。そして今は、広い母屋の一角を宿にと計画しています。「田舎に住んでいると、寂しいと思われがちですが、日々、自然に感動したり、温かい地域の人や遊びに来るいろいろな人と交流したりと、楽しく暮らしています。訪れる人に泊ってもらい、朝の美しい景色や鳥の声、夜の星空、ここの自然を感じてほしい」と、話すお二人。お試し宿泊体験で、ますます森町ファンが増えそうです。



自然に囲まれた広い古民家



自宅のすぐ下にある田んぼで農作業

Discovery OF My Life

ねっ！
森町に住もうよ！



森町天方地区鑑治島在住
松岡 岳さん
松谷 知葉さん

松岡岳さん／北海道→愛知県→
静岡県磐田市→森町へ

松谷知葉さん／新潟県→東京都
→静岡県浜松市→森町へ

まつおか たくはろは 松岡 岳さん(30代)、北海道出身。松谷知葉さん(20代)、新潟県出身。車好きの松岡さんが倉庫付きの空き家を探し、2018年から磐田市にある勤務先のヤマハ発動機の社員寮との2拠点生活を始める。5年間のリノベーションを経て、2023年から知葉さんと共に暮らしている。



庭の端っこに腰掛け、川を眺めながらおしゃべり

「好き」を追い求める暮らし、 今なお、夢の途上！

自宅というより車いじりの工房

「古い車とバイクがたくさんある」と聞いて訪ねたのですが、道路からはそれらしき家は見当たりません。木々に覆われた民家の横の小道を下に降りてびっくり！広い庭と脇の納屋には、マニアックな車が数台。表からは平屋に見えた家の下が倉庫になっていて、扉を開けると何台ものバイクがぎっしり並んでいます。「車もバイクも全部松岡さんのもの？」と驚いていると、「修理を頼まれた車もあるし、バイクの半分は友人からの預かりものです」とのこと。「昭和年代の車は古過ぎて部品がないことから修理工場でも断られるんですよ」と友人・知人から相談されるそうです。

ふと目に入った農機具についても尋ねると、「脱穀機を薪割り機としても使えるよう、作り替えようと思って」と、ニコニコしながらさりげなく話す松岡さん。

子どもの頃から機械いじりが好きだった松岡さんは、釧路工業高等専門学校から愛知県豊橋市の大学へ編入。大学院卒業後、静岡県磐田市のヤマハ発動機へ就職したという経歴の持ち主。

ずっと機械工学を専門としてきた、機械の開発や設計のプロだから、どんなものでも直してしまうのです。



広い庭にクラシックカーが並ぶ

みんなの応援で 実現した理想の家

2018年、同期で車好きの友人と、バイクを何台も置ける空き家探しをスタート。「彼が絶対森町だ！と言うので森町の移住コーディネーターの岩瀬さんに相談し、見つけたこの空き家を借りようと決心。この家のお隣に住む親切な方が、大家さんに連絡を取ってくれたんです」。それから、週末に通っては雑草を刈り、コソコソ片付け、地域の人たちの手も借りながら5年の月日をかけて、生活できるようリノベーションしました。その間、農作業を手伝ったりイベントに参加したりして、地元の人たちから「岳くん、岳くん」とかわいがられるようになりました。

「会社の独身寮を30歳までに出入しなければいけなかったので、リノベーションを頑張りました」。そこへ、知葉さんがやって来たので、またまた歓迎を受けて地域は大盛り上がり！

二人のお気に入り 静寂とレトロな生活空間

家のすぐ前に川が流れていることも、気に入った理由の一つ。気持ちの良い水辺の風景が広がります。「自然が豊かで静かなわりに交通の便は良いし、暮ら



住居スペースの下はバイクが10台も並ぶガレージが2つ

しやすいですね」と知葉さんが言えば、「寒さが厳しい北海道の田舎育ちの僕にすれば、ここは温暖ですし、生活に不便は感じません」と松岡さん。

二人とも、自宅から車で40分ほどの磐田市内の会社に通勤。同じ生活リズムで過ごしています。

「テレビは必要ないので置いてませんが、逆に静かな時間を楽しんでいます」。ふと見ると、レコードプレイヤーとレコードがいっぱい。「古いオーディオやレコードが好きなので」と松岡さん。知葉さんの部屋は桐ダンスなど落ち着いたレトロな雰囲気と統一されています。昼は仕事、夜は二人の時間を大切に静かに過ごす。そして休日は車いじりや二人

でツーリングへ出掛ける、といったように、ONとOFFの切り替えを上手に楽しんでいます。

頼み事をしたりされたりの 地域との嬉しい関係

高齢化が進む森町では、若い人がやって来ただけでうれしいもの。「これ食べて」と採れたての野菜をお裾分けしてもらったり、逆に「直してほしいものがあるんだけど、いいかな？」と頼み事をされたり。「世代を超えた付き合いもありがたいですし、同世代の人が近くに住んでいるのも心強いですね」と松岡さんは言います。

近隣の住民と持ちつ持たれつで、仕事と趣味を両立させながら暮らす二人を、地域の人たちが適度な距離感で見守り、応援しています。

宝物に囲まれて
夢の世界で暮らす
二人のONとOFF



レトロな愛車の前で



木々に囲まれた一見2階建てに見える平屋の住居



知葉さんの部屋にはレトロな家具などがそろう



こんな雄大な川辺を日々散歩できる幸せ

Discovery OF My Life

ねっ！
森町に住もうよ！

森町城下地区在住
高橋 文子さん
菊池 紀之さん

高橋文子さん／東京都→森町へ
菊池紀之さん／東京都→森町へ

高橋文子さん(40代)、菊池紀之さん(50代)、東京都出身。自然の中でゆっくり暮らしたいと二人の意見が合い、移住を検討。2019年、東京で開催された「静岡まるごと移住フェア」で森町に興味を抱く。2022年、農業体験や空き家探しのために何度も訪れるうち、町の雰囲気が気に入る、移住。

ほどよい環境と住まいで 無理なく移住生活をスタート。

里山の雰囲気を感じつつ
すぐ生活できる家を探して

以前から自然の中で暮らす生活に憧れていた文子さんとパートナーの紀之さん。しかし、「テレビで紹介される何もない山奥で暮らす一軒家とか、カッコいいログハウスを建てて自給自足生活とか、ハードルの高い移住って私たちには厳しいかも」と、不安がありました。

「仕事が好きなので、もう少し働いてお金を貯めてから山の方に家を建ててもいいかな」と考え、年に1、2回移住フェアに足を運んでいた文子さん。2019年に東京で開催された「静岡まるごと移住フェア」で森町ブースに目が留まりました。

実際に訪れてみると、周りは自然がいっぱいなのに新東名高速道路のイン

ターチェンジに近く、鉄道の駅もあって交通が便利。御前崎市内まで1時間ほどなので、海釣りが趣味の紀之さんとも意見が一致！「私たちが暮らすにはちょうどいいかも」と、里山が感じられてすぐ住める借家を条件に探しました。



風情ある町並みを颯爽と自転車通勤

人が好き、料理が好き。
自分をいかし、夢が叶う
ちょうどいい森町。


ランチ会に出す
韓国料理ビビンバ

そして、大家さんとも気が合う今の住まいに決定。「近くに人がいる安心感、風情が残る城下地区の雰囲気、生活圏内は自転車でOKという利便性、散歩できる川が近いところなど、実際に住んで気付いた良さが多いですね」と、満足そうに話していました。

初心者だから発見の連続
野菜づくりが面白い！

移住前、東京にいたときはコロナ禍のためずっとリモートワーク。コロナ禍明



野菜をたくさん収穫！すっかり畑仕事に夢中の二人

けから森町の空き家ツアーや田植えから稲刈りまで農作業のイベントなどに積極的に参加しました。森町へ移住してからはおこもり生活から一転して、伸びやかな生活を満喫しています。「二人とも畑仕事はまったくの未経験だったのに、ここへ来てからはずっと耕しては草むしり。キュウリにナス、トウモロコシ、枝豆などを植えたんです。こんなに採れるの？と、驚くほどたくさん収穫できました」と、うれしそう。

さらに目を輝かせて、「畑で作業をしていると、大きなミズが出てきたり、トンボやチョウがいっぱい飛んでいた。見たことのない鳥もやってくるんですよ」と、話す文子さん。野菜づくりを通じて、生きものたちとのふれあいが日々の生活に彩りを添えています。

もっと人とふれあいたい
趣味や資格をいかしたい

仕事に不安があった文子さんの現在の職場は、自転車通勤10分の森町役場。会計年度任用職員ですが、「まるでここで10年も働いているみたいです」と、上司も感心するほど頼りにされています。また、調理師免許とフードコーディネーターの資格を持ち、これまで飲食業やイベント関係など様々な仕事をしてき



初栽培で大きく実ったゴーヤ

た経験をいかし、近所のシェアスペースで月に1回、韓国料理のランチ会を開催。地元の女性たちに好評だそう！

「手織物認定講師の資格を持っているので、いつか織物ができるカフェをやりたい。フードコーディネーターの資格もいかして、住民に食生活改善のアドバイスをする仕事もしてみたい。あとは、森町を訪れる外国人と地域の人が集い、ふれあう機会を作りたい。ああ、やりたいことが増えて困っちゃう」と、森町で叶えたい夢がどんどん広がります。



条件に合う空き家に改装なしで入居

Discovery OF My Life

ねっ！
森町に住もうよ！



森町天方地区亀久保在住 佐野さん一家

佐野達哉さん／静岡県浜松市→沖縄県→
海外を周る→静岡県浜松市→森町へ
佐野祥さん／神奈川県→東京都→沖縄県→
海外を周る→静岡県浜松市→森町へ

さ の たつ や
佐野達哉さん(30代)、静岡県浜松市出身。
し ょ う
佐野祥さん(30代)、神奈川県出身。長女と3
人暮らし。2021年に移住。一級建築士の達
哉さんは、敷地内の建物を自らの手でリノ
ベーション中。里山で楽しむ体験プログラムを
企画し宿泊者を受け入れる。祥さんは応募し
た「地域おこし協力隊」を委嘱され2021年か
ら3年間、活動。

里山の暮らしでは、仕事も学びも遊びもみ～んな家族一緒！

「天空ひとり占め」の里山から 持続可能な生き方を発信。

自然の恵み豊かな
里山暮らしを満喫！

佐野さんの住まいは、森町中心部から太田川(吉川)沿いに20分ほど北上した山間。眺望抜群の3,000坪(約10,000平方メートル)の敷地には、セルフビルドした住居とリノベーションしたゲストハウス、古民家、作業小屋、畑や果樹林、竹林など里山暮らしの環境がそろいます。達哉さんの父親が15年ほど前に田舎暮らしに憧れて購入し、手付かずになっていたところに移住し、今も改築を続けながら暮らしています。

東日本大震災で決意した 衣食住が手元にある生き方

大学時代から国際協力や平和について関心を持っていた祥さん。旅先の沖



原木シイタケについて父から学ぶ長女

縄で出会った達哉さんと、2011年に起きた東日本大震災をきっかけに、「これからどう生きていくべきか」を話すうち、将来は自然の中で持続可能な生活をしたいと考えるようになり、二人は2年間の旅へ。世界各地をめぐり、多くのヒントを得て帰国。「地球にやさしく、顔が見えるつながりのある暮らしをしたい」「知らないところで作られたもので暮らすのではなく、衣食住が手元にある暮らしをしたい」と考え、森町へ来たのでした。

地域の方々との楽しい毎日

「森町を知る以前は、沖縄か九州に住みたいと思っていたんですよ。里山の暮らしがどんなものかも知りませんでした」と言う祥さん。ところが、実際に暮ら始めると、四季が豊かで自然の循環が感じられる森町がどんどん好きになっていきました。

「朝日が昇って霧が晴れていくのも山間に日が落ちていくのも、月が出て雨が降ってもきれい。新緑も紅葉も、とにかく毎日の景色が飽きないんです」。それと、毎日楽しいのは、近所に住むお年寄りとの関係が大きいと言います。

「一人一人がかわいいんですよ。80歳過ぎてもキラキラしていて。何でもよく知っていて、昔からの里山の良さを立体的に聞くことができるんです」。里山での暮らしを受け継ぎたいと思っていた祥さんには願ったり叶ったりで、保育園に通う娘さんのことも、自分のひ孫のように接してくれて、草刈りや集まりで会うのを楽しみにしてくれています。

また、自宅のほか国指定重要文化財の友田家近隣の文化財や寺、廃校跡地に残っている教室などで、お年寄りや干し柿を作ったり、餅つきをしたり、音楽会や写真展を開いたりするうちに、「最初は自給自足に興味がありましたが、今は全部を自分たちでやる必要はなく、ときには頼っていいんだ。得意なことをそれぞれが引き受け、村ぐらいの単位で一緒にやっていく『村給村足』が良いなと思うようになりました。それこそが、世界中を周り探し求めた持続可能で循環型の暮らしのカタチなんです」と求めている姿を実感しているようです。



親子の時間を大切にする祥さん



農業ボランティアにキンカンの収穫を指導



生き生き輝く
地域の方々みたい
自然のリズムに乗
暮らしたい。



どこまでも続く空と澄んだ空気に包まれて



表面を炭化させた焼杉でゲストハウスの外装を仕上げる達哉さん



大きな窓から陽が射し込み、木の香りが漂うゲストハウス

体験しながら交流が広がる ゲストハウスも完成間近！

一方、達哉さんが企画している体験プログラムの場となる敷地内には、ミカンなどの柑橘類、キウイ、ブドウ、ブルーベリー、ビワの果樹、栗の木があり、シイタケの原木栽培も行っています。

二人は、地域おこし協力隊の任務終了後に補助が出る「起業補助金制度」を活用して加工所を作り、敷地内で採れた果物をジャム等に加工して販売したいと準備中。2024年春の開業に向けて、リノベーション中のゲストハウスの施工も終盤を迎えていました。「自然にやさしい建材にこだわり、地元の日本三大美林の天竜杉、壁には漆喰と我が家の田んぼのワラを使っています。コソコソ自分

たちで作業してきました」。視界を遮るものが何もない大きな窓からは里山の風景が広がり、まさに天空ひとり占め！

「太陽や星の動きとともに変わる景色をここから眺めてほしい。また、おじいちゃんおばあちゃんが作った野菜などを使った食事、自分で薪割りをしてお風呂に入る、味噌づくりや農作業といった里山ならではの体験プログラムを用意します」と、楽しそうに話します。

また、森町では「森町人をつなぐ関係人口創出事業費補助金」があり、空き家を利活用し、他地域から人を呼んで町の活性化を図る居場所づくりも進行中。「あと望みといえば、伸び伸び自然の中で子育てをしたいと考えている若い世代に移住してほしいです。うちの娘と遊ぶ仲間が増えたら良いな」と話していました。

Discovery OF My Life

ねっ！
森町に住もうよ！



森町森地区天宮在住
松葉知香さん

愛知県→静岡県浜松市→
愛知県→森町へ

まつばちか 松葉知香さん(20代)、愛知県出身。浜松の文化芸術系の大学でインターフェイスデザインを学ぶ。2021年、森町の「地域おこし協力隊」に応募。お試し協力隊を経て、2022年から中山間地域活性化コーディネーターとして特産品の開発、交流拠点の整備、「森町地域おこし協力隊新聞」の編集などで地域振興を図る。



落ち着いた雰囲気の室内

特産品開発からイベント開催、 広報活動まで充実の日々。

好きなものづくりと
地域おこし協力隊は似ています

「大学の講義で地域おこし協力隊について知り、そのときからやってみたい」と考えていた松葉さん。卒業後は一般企業に就職して、愛知県知多郡の実家から名古屋まで通勤していました。学生時代の思いが捨てきれずに地域おこし協力隊の情報を集める中、森町の募集を見つけました。

大学で学んだエクスペリエンスデザインとは「人が心地良いと感じるデザインをすること」で、「ものを作り上げるプロセスが重要で好きなんです。それって地域おこしにも共通しているんですね」と松葉さん。

「ものづくりに関わることができて、母校がある浜松にも近く、実家からも遠くないところで仕事ができれば」と希望が見事に一致し、2021年、2泊3日の「お試し協力隊」に参加。「森町の観光名所を案内してもらい、先輩の協力隊の様子も聞かせてもらい、ご飯もごちそうになりました。もてなしの嵐でしたよ」。2022年、晴れて地域おこし協力隊に採用され、森町に移住しました。



古民家をリノベーションした「たまどん」

「おもてなしの日々から現実の日々へのギャップは感じていません。実際に住み始めてみると、素朴で温かみがある暮らし方、良い意味で人って面白いと感じることが増えました」と松葉さんは言います。

「バチカ」と親しまれながら
地域の憩いの場を復活！

取材に訪れたのは、中山間地域の集落・鍛冶島地区にある古民家をリノベーションした地域の交流拠点「たまどん」。名前の由来は、「それが誰に聞いてもわからず、謎なんです。元酒屋で、昔から集落の人が立ち寄ってはお酒を飲んだり、子どもが駄菓子を買いに来たりしたみたいで、思い出が詰まった大切な場

所だと知りました。これからはこの古民家を、地域の憩いの場、鍛冶島地区にある国内有数の半夏生の群生地を見に来る観光客が立ち寄る場所に復活させて、鍛冶島地区の魅力をもっと感じてもらえるよう、内と外をつなぐのが私の役割かな」と松葉さん。

「バチカ、取材大丈夫か～」と年配の半夏生保全グループのリーダーが心配そうに訪れたり、森町の職員から「バチカ、電気つかないけど」と、親しくあだ名で呼ばれたりするように、すっかり地域に溶け込んで、暖かく包まれながら活躍しています。



商品開発した森町のクラフトビールと甘々娘のポタージュを前に「たまどん」で

私が愛おしいと思う
日常の瞬間を
みんなにお裾分けしたい。

森町移住ものがたり

松葉さんがブランド化に
携った森町産クラフトビール



鍛冶島産のブルーベリーがたっぷりの「ブルーベリーセゾン」



森町産の和梨の香り漂う「和梨ホワイト」



森町三倉産の和栗を使った「和栗スタウト」

イベント、広報。やればやるほど
やりたいことが増えていく

「怖がりなのに、スリラーものとか幽霊とかが好き」という松葉さんは、遠州地方の不思議な話を収集して怪談イベントを主催するなど多彩な発想で、若い人が気軽に山間部を楽しむツアーの企画や地域の農産物、加工品のPRイベントなどを日々考案しています。

広報にも力を入れようと「森町地域おこし協力隊新聞」の編集長として企画編集に携わり、得意なイラストや4コマ漫画を掲載しています。「企業のオフィスで企画を考えるより、森町で人と交わり、じかにものを感じながら企画を立てる方が、プロセスも結果も見えて、やりがいを感じる」と松葉さん。

「ニホンカモシカやタヌキに出くわすこともある。自然豊かでにぎやかな森町を応援してくれるファンが増えるとうれしいです。私が愛しいと思う日常の瞬間をお裾分けしたい」と、やりたいことの広がりを目を輝かせる松葉さんです。

松葉さんが企画した「たまどん」でのイベント

■ 「かき氷@たまどん」は
売り切れ大好評！



■ 名古屋大学フォルクローレ同好会による
「鍛冶島 秋の音楽会」開催



■ サツマイモを自ら植えて掘り、焼いた
「芋ネエと芋クイネエ」(焼き芋会)



「森町地域おこし協力隊新聞」で4コマ漫画を掲載



商品開発を通じて森町をPR

森町には地元のブルーベリーや和梨を使ったクラフトビールが既にありました。そして新たに、松葉さんは和栗を使ったクラフトビールを手掛けました。「良い商品なので、統一感を持たせてもっとアピールできたら」と、松葉さんがコンセプト作りを行い、同期のデザイナーに3種のラベルデザインを依頼してブランド化を図りました。

また、森町産の和栗を使ったジャムは、町外に委託生産していたものを自分たちで作ろうと、「たまどん」を加工場にする計画。森町特産のトウモロコシ「甘々娘」を使ったポタージュの開発にも取り組んでいます。

森町には何でも相談できる 最強の移住エキスパートがいる!!

教えて!
森町移住の
あれこれ



「**榊原さんは仕事を超えて、森町愛がすごい!**」(岩瀬)

「**好きな町を案内できるから、とにかく楽しいんです**」(榊原)

榊原 私が定住推進課の担当になったのが2019年。岩瀬さんと一緒に仕事をするようになったときって、岩瀬さんが森町に移住してまだ3年ぐらいのときでしょ。それなのに、中山間地域のどこへ行っても岩瀬さんのことを知っている方がいてびっくりでした。岩瀬さんは早くから地域の人の信頼を得ていましたね。

岩瀬 榊原さんも職員の中では地域の人と一番深く関わっているのでは? それと、公務員らしくないところがあって、移



住希望者の案内に同行してもらうとき、ちゃんと紹介しないとみんな担当職員だとわからないんですよ(笑)。

榊原 そうかも。「森町好きのおバサン」がくっついてきたぐらいに思うみたい(笑)。

岩瀬 榊原さんは役場の職員という以前に「森町大好きお姉さま」なんですよ。仕事なんですけど、もう仕事の枠を超えていますから。素直に「面白い人を森町に呼び込みたい」「森町をもっと良くしたい」というスタンスなので、僕もやりやすいし、とても心強い。面倒見が良すぎて、そこまでやっちゃうの? と心配になることもあります(笑)。

榊原 移住フェアで森町に興味を持ってくれた人がいると、「土日でも祝日でもいいからぜひ森町に来てね」と相手の要望に合わせちゃう。よく「公用車で町中案内してもらえとは思ってなかった」と言われます。

岩瀬 半日なり1日なり、寺社めぐりから買い物、病院など、生活していく上で必要となることを案内すると、移住希望者も



森町役場定住推進課
さかき ばら のぞ み
榊原希美さん

森町役場 定住推進課 主幹
森町生まれ、森町在住。1995年森町役場入職。2019年から現職。これまで担当した移住者は37世帯、72人(2024年3月現在)。「移住を検討される方に寄り添い、定住後までサポートする。出来ることは何でもやる」がモットー。

森町について暮らしのイメージができるので良いと思いますよ。

榊原 移住希望者のほとんどは森町を知らない人たち。案内するのにちょうどいいサイズなんだよね。観光名所の小國神社を出発して、田園風景を見ながら移動。中心部の行政・商業施設を紹介し、町並みはこんなふうに着いた雰囲気です。そこから天宮神社、城下、山間部の太田川ダムを周り、移住者が多い鍛冶島地区とか、森町の山の上の



森町移住コーディネーター
いわ せ しん や
岩瀬進哉さん

森町移住コーディネーター。静岡県浜松市出身。東京での大学生生活、設計事務所での仕事を経て浜松に戻り、工務店に勤務。2016年から森町地域おこし協力隊第1号として3年間活動。2017年、森町内に「ゲストハウス森と町」を開業。県内外から観光客を受け入れる。2019年、移住コーディネーターの委嘱を受ける。建築のノウハウをいかし空き家のリノベーションにも取り組んでいる。

集落の様子を知ってもらいながら、ノンストップで1時間くらい。車を降りてちょこちょこ周ると2時間コースになることもあるかな。

岩瀬 榊原さんと一緒に何回も案内するうち、移住希望者向けのベストコースができました。たまに昼食を一緒に食べることもあります。地元のお店を知ってもらえれば、それも良いんじゃないかと。

「**移住の先輩から話を聞くのが一番かな**」(榊原)
「**地元の人と話す、生活をイメージしやすいと思う**」(岩瀬)

榊原 遠方から森町へ見学に訪れる人が気になるのはやっぱり宿泊ですね。最近は、「ゲストハウスに泊まりたい」と希望する人たちが増えてきました。岩瀬さんのようにオーナーが移住コーディネーターだと、町の生活についても詳しく知ることができるでしょうね。

岩瀬 よく、ゲストハウスの宿泊者に町内の居酒屋を紹介しています。カウンターで地元の方と話をして、「知っている空き家はありますか?」とか「買い物は?」とか、実際に森町に住んでいる人に話を聞くことで、生活のイメージをつかんでほしいと思って。

榊原 そうですね。定住推進課にも「移住者は増えていますか」とか「何人ぐらいいますか」と聞かれることが多いですね。

岩瀬 他に移住者がいないというのは不安ですから。実際に先輩移住者と会ってもらうのが一番だと思います。森町では交通費や宿泊費など一部、補助金が出ることもありますし。

榊原 先輩移住者が企画しているイベントに参加してもらって、地域の人にも移住者にも会えるので、おすすめです。

岩瀬 田植えや稲刈り、住居のリノベーションなど、住民や先輩移住者といろいろな体験ができますね。

榊原 空き家を案内して、お祭りをしてる地区で夜まで盛り上がったこともあったよね。

岩瀬 若い世代の移住者がいるか心配だった女性が、同世代の先輩移住者と気が合ったようで「やっていけそうな気がします」と言ってくれました。



「**移住者への補助や支援、かなり充実していますよね**」(岩瀬)

「**森町ならではの支援制度もどんどん増えています!**」(榊原)

榊原 移住者は空き家を希望する方が多いので、森町では「空き家バンク」(※1)への登録を積極的に推進しています。そこで、登録可能な空き物件の片付けや改修に対する補助金制度(※2)を作りました。空き物件の残置物を処分する場合に10万円、改修を行う場合は30万円を上限に補助します。1物件につき1回限りの補助ですが、所有者が使っても利用者が使っても良いよ、という制度です。また、2023年度から「森町移住者新生活応援金」(※3)を設けて、移住者には2人以上の世帯で移住された場合は10万円、単身世帯なら5万円、子ども1人につき5万円の加算があります。

岩瀬 いいなあ。僕が来たときはなかったから、羨ましい。こうした補助金制度は他の市町村にもありますか? 他と比べてどうなのでしょう?

移住するなら森町へ! 手厚い支援が魅力です。

森町では、移住就業支援補助金や新婚さんへの応援金、起業支援、空き家活用支援など、様々な補助金や支援の制度があります。

右記に支援の項目を挙げました。詳細はHP等をご覧の上、お気軽に森町役場定住推進課へご相談ください。

森町空き家・空き地バンク(※1)

町は、賃借や売買を希望する所有者等から情報提供を受けた物件を、町の「空き家・空き地バンク」に登録し、ホームページ等を通じて利用希望者に情報を提供しています。



空き家等利活用推進 支援事業費補助金(※2)

森町空き家・空き地バンクに登録可能な空き物件の改修工事を行ったり残置物の処分をしたりする場合、その費用を補助します。

【対象となる方】
売買又は賃貸等による利活用を目的とした空き家の所有者、購入者又は賃貸者で残置物処分や改修を行う権限を持つ方、所有者から許可を得た方

【補助対象経費】①改修工事 ②残置物処分
【補助要件】

- ①空き家・空き地バンクに物件を登録
- ②税金等の滞納がなく、暴力団関係者ではない
- ③登録した空き家を3親等内の親族に売却又は賃貸しない
- ④残置物処分为委託する場合は、一般廃棄物処理業の許可業者に依頼する

【補助限度額】
改修工事 上限30万円
残置物処分 上限10万円



森町移住者新生活応援金(※3)

移住に伴う新生活スタートアップに対し経済的に支援します。

【対象となる方】
町の移住相談窓口等で移住相談を行い、かつ町内の遊休不動産を活用して移住された方

【補助額】
①単身世帯5万円
②2人以上の世帯10万円
③18歳未満の子ども1人につき5万円の加算

地域材利用木造住宅 推進補助金

町内の製材所又は材木店から材料を購入し、町内の建築業者が建築する木造住宅を、町内に建築する方を対象に、木造住宅新築時及び床面積10㎡以上の増築時の地域材購入費を上限10万円まで補助します。





榊原 他の市町村でも補助金制度を設けていますが、森町ほど条件のハードルが低いところはないと思います。たとえば、年齢や補助率に制限を設けている自治体が多いのですが、森町は独自で予算を組んで、どの年代でもフォローできるようにしています！若い人も元気なお年寄りにも来てほしいと森町は考えています。

岩瀬 ぜひ年齢にかかわらず森町に移り住み、ここで健康に暮らし、どんどん活躍してほしいなあ。

榊原 森町は、自立して健康に生活できる期間を示す「お達者度」が、静岡県で男女ともに1位(平成27年)となったこともあるんです。家庭医に関する取り組みや訪問看護の充実など、地域医療や健康長寿に力を入れています。

岩瀬 「元気もりもりかわせみ体操」を推進したり、ポールウォーキングの講習会を開いたり福祉に力を入れているせいか、元気なお年寄りが多いように思います。

榊原 新しくできた「森アリーナ」のトレーニングルームでは、65歳以上を対象に年齢に合ったセミナーも開催して

います。「さわふれクラブ」や認知症の方とその家族が集う「オレンジカフェ」もあるしね。

岩瀬 そうそう、ここ「ゲストハウス森と町」でもやっていますよ、認知症カフェ。



岩瀬さんが営む「ゲストハウス森と町」で熱く語る



「**噛めば噛むほど
味が出る森町**」(榊原)

「**町中の活性化にも取り組み中**」(岩瀬)

榊原 移住を考えている方はしっかりとしたビジョンを持っていると思います。ミシュランで一つ星を取った大阪のフレンチレストランで働いていたシェフは、自分のお店を持ちたいと森町に移住してきました。

岩瀬 景観や環境にこだわり、土地探しに3年、工事に1年、トータルで4年掛か

りましたが、理想の店ができて良かったんです。

榊原 行政として支援できることはしながら、高台の景色抜群のところに、すてきなレストランができましたね！森町は住み方によっては噛めば噛むほど味が出る系の町なんです。

岩瀬 僕は森町の豊かな自然はもちろん好きですが、中心部の昔ながらの歴史を感じる通りも好きなんです。秋葉街道、塩の道の要衝として栄え、昭和40年～50年代頃までは様々な商店が並んでいたと聞きました。「個人の商店が並び、顔を見合わせて話ができるような楽しめる通りにしたいね」と話しています。

榊原 岩瀬さんは新しく会社を立ち上げたんだよね？

岩瀬 はい、「モリマチリノベーション」という法人を令和3年に作りました。肉屋だった店舗を駄菓子屋にリノベーションしたのが始まりで、和菓子屋さんの古民家カフェができ、シェアキッチンや僕が運営するゲストハウスの別館が入った複合施設も作りました。みんなでワイワイ楽しみながら空き物件のリノベーションを進めています。

榊原 町に活気が出て新しい移住者がどんどん増えてほしい。

岩瀬 森町の良さは地域の絆が強いところでもあるので、実際に訪れ、地域の人と環境が自分に合うかどうか確かめてから移住を考えてほしいですね。

榊原 森町に興味を抱いた方は、お気軽に森町役場の定住推進課へ連絡ください。丁寧に対応いたします。

Morimachi Data データで見る森町

森町は、三方を小高い緑の山々に囲まれ、美しい自然環境と共存して発展してきた町です。町の北部が山村地域、中部が商工業地域、南部が農業地域と大きく3つに分かれています。

人口総数／17,201人
外国人／528人
駅数／5駅
町内幼稚園／3園
町内小学校／3校
町内中学校／2校
町内保育園／5園
都市公園／11か所
小規模公園／5か所
路線バス／2路線
自主運行バス／3路線

標高	最高(最北端)	941m
	森町役場	43.6m
	最低(最南端)	15.4m
広さ	東西	13km
	南北	24km
	面積	133.91km ²



地区別人口・世帯数

	(令和6年3月1日現在)						
地区名	三倉	天方	森	一宮	園田	飯田	合計
世帯数	285	392	2,765	616	1,253	1,444	6,755
人口	623	1,009	6,731	1,733	3,322	3,783	17,201

交通の便

- 新東名高速道路／「森掛川IC」から東京まで2時間40分、名古屋まで1時間35分。静岡市まで60分
- 一般自動車道／袋井市まで25分、掛川市まで30分、磐田市まで35分、浜松市まで50分
- 天竜浜名湖鉄道／遠州森駅から掛川駅まで25分

森町 定住推進課 移住交流係

電話：0538-85-6321 E-Mail：teijyu@town.shizuoka-mori.lg.jp

森町移住定住促進サイト

TENCOMORI



地域おこし協力隊の協力により
作成された、森町のPR動画

「Morimachi Tourism Short Movie」



静岡県森町
公式YouTube

「静岡県森町」森町PR動画



移住就業支援補助金

東京圏(埼玉県・千葉県・東京都及び神奈川県)からの移住の促進と、中小企業の人材確保を目的とし、支援金の支給を行っています。

【主な対象要件】

移住する直前の10年間のうち通算5年以上、かつ、移住する直前に連続して1年以上、「東京23区内に在住していたこと」、若しくは、「東京23区外の東京圏のうちの条件不利地域以外の地域に在住し、東京23区内の法人等へ通勤していたこと」

※その他の要件や詳細は森町公式ホームページをご覧ください。



住もうよ森町新婚さん応援金

森町で、結婚に伴う新生活を始めるお二人のスタートアップに必要な費用の一部を補助します。

【対象となる方】

- ① 令和3年4月1日から令和8年3月31日までの間に婚姻届が受理され、森町に住民登録されているご夫婦
- ② 婚姻日の年齢がお二人とも、又はどちらかが39歳以下のご夫婦
- ③ 応援金の交付申請日から引き続き1年以上、森町に居住するご夫婦



【補助額】一世帯当たり上限30万円

【補助対象経費】

令和3年4月1日から令和8年3月31日までの間において、婚姻日を基準日とし、3か月前の月の初日から12か月後の月の末日までの間に支払った費用

【対象費用】※詳しくは問い合わせを

- ① 新築費用・賃貸費用
- ② 住居のリフォーム・増改築費
- ③ 引越し費用
- ④ 車両購入費・リース料
- ⑤ 家具家電購入費



森町結婚新生活支援補助金

結婚に伴う新生活に対し、経済的に支援する制度です。

【補助額】

- ① 夫婦共に29歳以下の場合は最大60万円
- ② 39歳以下の場合は最大30万円

※交付の条件がありますので、詳しくは問い合わせを。「住もうよ森町新婚さん応援金」との併給可能ですが、対象経費の重複は不可。



森っ子就学応援金

新入学児童生徒さんに対して、入学応援金を交付します。

【交付金額】

- 小学生／3万円
- 中学生／3万円
- 高校生／5万円

